

オオサンショウウオの研究 XII

- 摂餌生態 3 -
(4件の事例報告)

栃本武良*

はじめに

オオサンショウウオ *Andrias japonicus* (Temminck, 1837) に関する生態についての前2報 (栃本2002・2004) では本種の多様な摂餌生態について述べたが、本報告では新たな事例と既報の餌付群などについて、その後の経過を報告する。

事例1 「食われていたドブネズミ」

経緯

平成15年12月14日、兵庫県佐用郡内において活動している“佐用のオオサンショウウオを守る会”の野村智範氏から、オオサンショウウオがネズミらしい物を吐き出したと言う連絡があった。このオオサンショウウオは佐用町平福の住宅街の水路で2日前の日に発見されて、捕獲・測定した後水槽へ保護収容し、処置について検討している間に食べていた物を吐出したものである (写真1)。

オオサンショウウオの処置について姫路市立水族館に相談があったので、側溝を遡って迷入したと考えられる本流の水系へ放すようにアドバイスした。そこは千種川水系佐用川であり、降雨後のため水路への流入量も多く、その流れに乗って迷い込んだものと考えられた。水温は8.0℃でオオサンショウウオの全長は88cm、体重は3.65kgであった。吐出したサンプルはアルコール漬け標本として確保され、後日当館へ寄贈された。その標本の状態は、ほぼ消化されており骨と毛の塊となっていた。



写真1 吐き出された胃内容物 (佐用のオオサンショウウオの会提供)

ネズミの同定

小型哺乳類の研究者である三重県教育委員会の清水善吉氏に種類の同定を依頼した。「写真を見ての判断はヒメネズミかアカネズミと思われるが、やはり実物を調べないと断定できない」ということで標本を送付した。その結果では「ドブネズミかクマネ



写真2 オオサンショウウオが発見された佐用町平福の側溝 (佐用のオオサンショウウオの会提供)

ズミの可能性はあるが、このような人家近くに生活している種類とオオサンショウウオとの生活圏が重なっていないのではないか」という疑問が出された。捕獲場所が人家脇の側溝 (写真2) であることから、この点は理解されたが、「比較するためのこれらのネズミ類の骨格標本が手元にないので、しばらく時間が欲しい」ということであった。半年後にドブネズミにはほぼ間違いないという返事がもたらされたが、より確実に種を判定するために、毛によって同定できる所へサンプルを送った結果「間違いなくドブネズミである」という回答が届いた。サンプルの中には頭骨が大小2点あったが、これはドブネズミの成体の頭骨のサイズ45mmから考えると、大きい方は成体であり小さい方は未成体であるが、消化状況から考えると時間的には比較的短時間に捕食されたものと思う (写真3)。

結論

通常は生活圏の異なる動物であるが、オオサンショウウオが本川から迷入し住宅街の側溝において、たまたま遭遇したネズミを捕食したものだろう。この事例からも考えられるように、本種は鼻先に来た物体に対

* 姫路市立水族館



写真3 食われていたネズミの大小2つの頭骨

して反射的に反応して大口を開いて丸呑みにする摂餌生態であり、一部の新聞・雑誌などが漁協サイドに立った一方的な害害・害獣報道をしたようなアユなどに餌生物が特定されるものではない。

本種の成長速度の遅々たる状況からも推測できるが、餌取りが不器用で何でも食える時に食わねば生き抜くことができない厳しい環境に生息している動物であることが改めて本事例からも証明されたと言えるだろう。

事例2 「共食い」

経緯

平成16年6月10日の朝来郡生野町市川水系における調査で読み取られたマイクロチップのコード(00-063B-2B07)から、全長430mm、体重0.58kgの個体が3か月間で全長855mm、体重5.00kgに成長したのだろうか?という記録がもたらされた。斑紋の写真照合結果は別個体であることが明瞭になった(写真4・5)。



写真4 共食いされた個体No.079
(兵庫県自然保護協会提供)



写真5 共食いした個体No.0221
(兵庫県自然保護協会提供)

読み取られた体内標識のコードは3か月前に登録された個体であり、フィールドノートへの記載ミスかとも考えられたが、新たな個体の写真は未登録のものであった。

結論

マイクロチップの読み取り機には、その機種によって読み取り可能な距離が異なる物がある。大型のハンディタイプではその距離が15~20cmもあるが、小型のポケット型では4cmしかないので動物の体表を撫でるようにして読み取らねばならない。この個体は当初はハンディ型で読み取ったために、左肩から離れた位置に存在していたチップを読み取ることができたのであるが、7日後に再捕した時にポケット型リーダーでチップの位置を特定した結果、腹部からの反応があった、明らかに共食いされていたことが判明した。この時の測定値は865mm、4.70kgになっており、7日間で300gの体重減を示していた。

飼育下における共食いの事例では、当館の水槽内で2件が記録されていたが、野外における確認は本事例が初めてのものであり、貴重なデータとなった。河川内の同じレベルで行動する最も捕食しやすい餌がオオサンショウウオそのものであるとすることができる。

事例3 「餌付けされたオオサンショウウオ群」 経緯

詳細は前報の栃本(2002, 2004)に記載したので、ここでは概略に留める。朝来郡生野町の市川本流で餌付けされたオオサンショウウオ群を2004年8月までに4回の測定を行い32個体を登録した。原則として毎年8月に採捕して、集団の構成や成長度、定住性、二次性徴などを観察していくことにしていたが、2002年は調査を実施できなかった。2004年4月には今までになく23個体もの多数の個体が出現したという情報があったので緊急的に採捕・測定を実施した。

結果

測定結果は表2に示すとおりであるが、当初の予測と大きく異なり定住性がほとんど見られず4回とも採捕したのは1個体のみで、2回の測定が出来たのは3個体だけであった。また、これら4個体は餌付けされているにしては、あまり良い成長を示していないことも意外であった。No.3の個体は4回の測定で、その内の



写真6 ブーちゃん用の特製全長測定器

3回は繁殖期と考えられる8月であったが、オスの二次性徴である総排出腔開口部周囲の隆起が初回のみの確認であることは、毎年繁殖に参加するとは限らないことを示唆するものであり、その原因としては栄養状態の悪さが一因ではないかとも考えられる。成長の悪さと共に合わせ考えると、与えられた餌の質や量の問題があるのかもしれない。2004年8月現在で32個体を登録したが、小さな魚礁にこれだけ多くの個体が集合し離散を繰り返している現象については理解しがたいところである。いずれにしても、まだ追跡期間も短く再捕回数も少ないので今後の追跡調査で解明していきたい。

例年、8月の測定後には姿を見せなくなると餌を与えている地元住民からの苦情があった。その理由は、繁殖期に産卵に適した場所を探索する行動と一致するもので、10月以後には産卵を終えたメスやあぶれたオスが元の定住域へ戻ってくる生態の一端を示すもので徐々に姿を見せる数が増加することを繰り返している。

事例4 「餌付されて急激に成長したブーちゃんのその後」

経緯

この個体の経緯は前報(2004)に記載したが、佐用郡上月町の千種川水系大日山川に生息が確認されて15年になるオオサンショウウオである。今回新たな確認資料を追加し、その後の成長経過を報告する。新たな情報の一つは佐用郡教育委員会に残されていた写真から同一個体としてさらに1回の測定値が追加されたものである。そして当館にもたらされた情報ファイルを整理したところ、ほぼ当個体と考えられる情報も見つかった。またこの個体に関しても、今後毎年7月に健康診断を兼ねて測定することとしており、2004年7月にも実施した。

結果

姫路市立水族館への情報は、1983年8月のもので、

約1mの大きなサンショウウオがいるという電話情報の記録である。残念ながら現地調査をしていなかったため、写真もなく確実に同一個体とは断定できないが、この小さな河川でこれだけの大型個体が他に生息しているとは考えがたいところである。

佐用郡教育委員会の新たな資料では1990年12月で全長110cm程とされており、3年前の新聞報道より15cm大きい、7年後の実測では109cmであった。最新の測定は2004年7月で、135cmで体重26.2kgである。全長は1年前に比べて+3cm、体重は+1.5kgである。あまり餌を与えすぎないように忠告したこともあるが、前年の8月に人工巣穴の出入口が土砂で埋まり約1か月間、中に閉じ込められていたり、2004年の3月には護岸工事のため1か月ほど生け簀に隔離されていたことが体重減に結びついたのでないかとも考えられる。しかし、当個体は2004年中に野外で生存が確認された最大個体と言うことが出来る。

謝辞

今回の事例報告では、貴重なサンプルと写真の提供をいただいた“佐用のオオサンショウウオを守る会”の皆さんや、2003年12月から生野町市川水系で本種の体内標識による個体登録に精力的に協力していただいている兵庫県自然保護協会の大沼弘一・川上徳子両氏そしてネズミ類の同定をいただいた三重県教育委員会の清水善吉氏に、ここで深謝の意を表します。

引用文献

- 日野和明. 2004. 人喰いオオサンショウウオ激増に、惨劇続発！. プレイボーイ1月23日号. 集英社.
- 紀伊民報編. 2004. 国特別天然記念物オオサンショウウオ白骨死体見つかる. 紀伊民報7月29日付. 紀伊民報社.
- 京都新聞社編(2003)鴨川のオオサンショウウオ漁協の悩みの種です. 京都新聞11月5日付. 京都新聞社.
- 長田豊. 2000. オオサンショウウオ繁殖「害獣」に？. 5月13日付朝日新聞. 朝日新聞社.
- 栃本武良. 1991. 兵庫県市川水系におけるオオサンショウウオの生態Ⅱ. 野外における成長. 動物園水族館雑誌, 32(1):14-20. 日本動物園水族館協会.
- 栃本武良. 1992. 兵庫県市川水系におけるオオサンショウウオの生態Ⅴ. 定住性について(2). 動物園水族館雑誌, 33(4):85-90. 日本動物園水族館協会.
- 栃本武良. 2001. オオサンショウウオのたべもの. 山のうへの魚たち, 38:1-4. 姫路市立水族館.
- 栃本武良. 2002. オオサンショウウオの研究 X-撰 餌生態1-. 兵庫生物, 12(3):134-139. 兵庫

表1 上月町大日山川のブーちゃんの測定値

測定年	測定月	測定値 全長mm	体重kg	備考
1983.08		(約1m)		地元住民の電話
1989.07		990	不測	大物として報道
1990.12		(約1.1m)		県教委の写真
1997.06		1090	不測	県教委の一時保護
1999.06		1180	16.0	マイクロチップ挿入
2003.07		1320	27.7	クロアカの隆起なし
2004.07		1350	26.2	クロアカの隆起なし

表2 生野町市川本流小野地区の餌付群の測定値

個体No.	測定年	測定月	測定値 全長mm	体重 kg	個体識別 マイクロチップ	性別	四指 欠損
1	2001.8		1080	10.05	00-0100-E323	♂?	正常
2			990	6.65	00-0100-C606	♂?	正常
		2004.4	980	6.65		×	同上
3	2001.8		920	5.85	00-0100-636C	♂?	正常
		2003.8	915	4.24		×	同上
		2004.4	915	5.15		×	同上
		.8	915	4.65		×	同上
4	2001.8		865	4.15	00-0100-4119	♂?	正常
5			675	3.25	00-0100-0279	♂?	正常
6			665	1.65	00-0100-6F5D	×	正常
7			810	3.55	00-0100-9841	×	正常
8			630	2.30	00-0100-7ED9	×	正常
9			585	1.45	00-0100-B4D8	♂?	正常
10			545	1.35	00-0100-A389	×	正常
11	2003.8		1025	8.14	00-0100-9C6B		右後肢第4指小 左前肢第2指小
						×	
12			880	5.34	00-0100-7B87	×	正常
13			855	4.74	00-0100-EBDF	×	正常
		2004.4	865	6.10		×	
14			800	4.54	00-0100-F389		右後肢第3指小
						×	
15			710	2.84	00-0100-EBDF	×	正常
16			615	1.79	00-0100-D6C7	×	正常
		2004.8	630	2.15		×	
17	2004.4		730	3.15		×	
18			675	2.20		×	
19			970	8.25		×	
20			880	6.25		×	
21			740	3.80		×	
22			650	2.55		×	
23			800	3.30		×	
24			860	5.80		×	
25			815	4.65		×	
26			755	3.45		×	
27			810	4.45		×	
28			820	6.25		×	
29			760	3.95		×	
30			820	4.55		×	
31			850	4.95		×	
32	2004.8		635	2.10		♂?	

♂?:クロアカの隆起(オスの二次性徴)を認めたが放精は未確認
 ×:クロアカの隆起が見られない

県生物学会.

栃本武良. 2004. オオサンショウウオの研究XI—撰
 餌生態2—, 兵庫生物, 12(5):261-265, 兵庫
 県生物学会.

栃本武良・清水邦一. 2001. オオサンショウウオの食
 性について. 爬虫両棲類学会報, 2001(1):40.
 日本爬虫両棲類学会.